

子宮内膜症—この病気この治療（中国新聞 H18年12月13日水曜）

子宮外で周期的出血 月経を止め改善図る

（藤井レディースクリニック 院長 藤井恒夫 さん）

若い女性を中心に、子宮内膜症が増えている。月経がある女性の5－10％にみられるとの推定もある。不妊の原因になったり、卵巣がんに進行したりする場合があるだけに、油断は禁物だ。日本婦人科腫瘍学会暫定指導医でもある藤井レディースクリニック（広島市中区）の藤井恒夫院長（57）に聞いた。（編集委員・山内雅弥）

— 子宮の病気と思っている人も多いようですが。

一言で言えば、月経のような出血が、子宮以外の場所で起こる病気。月経の時に子宮の内側からはがれ落ちる子宮内膜に似た組織が、腹膜や卵巣、卵管、直腸などの表面に存在して、周期的に出血を繰り返すことで、炎症や癒着を引き起こす。原因はよく分かっていないが、女性ホルモンが大きな影響を及ぼしていると考えられている。

気付かない場合も

— 自覚症状は。

最もよくみられるのは、月経の度に強くなっていく月経痛。月経と関係なく、下腹部や腰の痛みが続いたり、性交時や排便時のもひどい痛みが起きたりする。このほか、月経の量が非常に多い月経過多や不正出血も伴いやすい。

ほとんど自覚症状がなく、気付かない場合も少なくない。

— 不妊になりやすいといわれます。

卵管が癒着すると、排卵された卵子がうまく取り込めなくなる。卵巣に血液がたまる場合は、卵胞の発育がしにくくなると考えられている。検査で原因が分からない「機能性不妊」の5－33%が子宮内膜症を合併する一方、子宮内膜症の女性の30－40%が不妊という報告もある。

通常は内診で確認

— 腹腔鏡で検査しなければいけませんか。

すべての患者に腹腔鏡検査が必要というわけではない。通常は問診の後、内診で子宮の後ろ側にある直腸との間の部分に、腫れやしこり、痛む場所がないかを調べる。さらに超音波検査と磁気共鳴画像診断装置（MRI）による検査で、臨床的に診断している。癒着が疑われるケースや、長期間不妊が続くなど確定診断が必要な場合は、腹腔鏡検査が必要になる。

— 治療法はどのように。

薬物療法と手術療法（開腹手術、腹腔鏡手術）がある。子宮内膜症は女性ホルモンによって進行するので、痛みがあまりひどくない場合は、まず薬で月経を止め、子宮内膜を萎縮させて症状改善を図る。進行期分類（I－IV期）でⅢ期以上は手術が必要な場合が多い。腹腔鏡を使った保存手術は妊娠が可能な半面、将来の再発もありうる。症状や妊娠希望の有無、年齢などを総合しながら、治療法を選択する。

ピルで痛みを緩和

— 薬の副作用は大丈夫ですか。

薬物療法では従来、男性ホルモンに似た作用の「ダナゾール」が主に使われてきた。最近では、点鼻スプレーや注射で脳下垂体の働きを抑えて、一時的な閉経状態にする「GnRh アゴニスト製剤」が主流。ただ、更年期症状や骨粗しょう症の副作用があり、通常の治療期間は4－6ヶ月間だ。

避妊薬のピルには、妊娠中のようなホルモン状態にして痛みを和らげる働きがあり、欧米では子宮内膜症の治療によく使われている。副作用が少ない漢方薬も使われる。GnRh アゴニスト剤は、保険適応だが、月1万円程度の自己負担がかかる。ピルは保険外でも比較的安い。

— 子宮内膜症からがんに進む心配は。

子宮内膜症は良性の慢性疾患であり、多くが閉経後に自然に治る。しかし、卵巣に古い血液がたまる卵巣チョコレート嚢胞がある場合、主として40歳代後半から閉経前後にかけ、100～200人に1人くらいの頻度で卵巣がんになる例がある。がん化のスピードは不明だが、定期的に受診していれば、早期に見つかることが多い。チョコレート嚢胞がある人は閉経2、3年後までに半年に1度は、婦人科検診を受けるようお勧めしたい。